原産業の展示会、初日は大盛況。遠くは仙台、新潟の業者も来会。新企画の2色の外柵と洋型に注目が集まる。明るさと新鮮な感覚が女性に大人気。

今年も関東を中心に各地から多数が参集

まぼろしの銘石・羽黒青糠目石も出展

本小松青上最高級品も10組展示、好評

原社長の選んだ楽しい動物彫刻と小物、お地蔵様など

原産業㈱（埼玉県さいたま市中央区本町西3丁目6―15＝国道17号新大宮バイパスユニクロ南）の「全国石屋まつり」（第26回展示会）が、去る10月4日㈫から6日㈭の3日間、今年も盛大に開催された。

記者が訪れたのは初日午前10時であったが、展示場はすでに満員。未明の雨もあがり、次から次へと石材業者が来会。埼玉県の長老や前泊の長野県一行、遠くは仙台や新潟の有力店も来場、対応の原社長もてんてこ舞いであったが、うれしい悲鳴を上げておられた。

今年の展示会では、新しい企画として2色（2石種）にデザインした外柵や洋型を特集、多数展示していて、特に40代～50代の女性に好評だった。

また、和型の墓石でもイメージ系、中国青系など新石種4～5種類が登場、「こちらの方が実戦的で、儲けも多く、役に立つ！」と参観者の声も聞かれた。さらに関東地方では銘石の名をほしいままにしている本小松青上最高級品も10組展示され、展示会に花を添えていた。

比較的、時代の変化に対して遅れているといわれる墓石業界の中で、原産業は新しいアイデアや小さな工夫を各所に見せており、町の墓石店にとっても参考になる点が多かった。

「全国各地の石材業者の御来会に感謝致します」と原社長。

水戸線羽黒駅前に建てられている〝男の友情〟の歌碑

水戸線羽黒駅前の〝男の友情〟の碑

茨城県桜川市羽黒（旧西茨城郡岩瀬町）の水戸線羽黒駅前に一昨年4月29日、「男の友情」の碑が建てられ、同駅の乗降客の目を止めている。

この碑は、笠間市出身で26才で人生を閉じた薄幸の天才詩人・高野公男と、作曲家・船村徹の運命的な出会いと、両氏が無名のころに苦節の中からコンビの作品を次々と発表、名曲「別れの一本杉」が大ヒット。しかし、そのころ高野の病重く、青春の夢もはかなく羽黒駅の片隅で船村と手を取り合い、泣いて別れた過ぎし日を思って綴った絶筆「男の友情」を記念、歌碑「男の友情」建設委員会が中心となり、建てたもので、地元の㈲秋葉石材店が製作、施工した。

作曲家・船村徹氏の筆で「友情無限」

本体は地元の稲田石製、はめ込みになった「男の友情」の歌詩とカラオケのマイク、裏側のお礼のことばは、やはり地元産の羽黒青糠目石で作られている。

スタンダードの和型墓石から女性に人気のある新型墓石まで豊富に展示

原産業㈱創立36周年記念
第26回「全国石屋まつり」
盛会御礼

原産業恒例の**「全国石屋まつり」「第26回展示会」**に御来展いただき有難うございました。社員一同感謝しております。今後もお客様の立場に立った営業活動を続けて参ります。

石の原産業 株式会社　卸売専門

TEL048-853-2381㈹～5　FAX048-853-8845

本　　社　埼玉県さいたま市中央区本町西3丁目6の15

（国道17号線新大宮バイパスユニクロ南）

原産業の展示会の写真と内容をホームページで見られます　http://www.harasangyo.co.jp

犬・猫・ふくろうなどの動物の彫刻と石の小物の新製品を多数展示

去る10月4～6日開催の当社の展示会に際し、全国各地から早朝より大勢の御得意様の御来展を頂き、まことに有難うございました。遠路からの皆様には前日よりの来訪に感謝致しますとともに今後とも変わらぬ御厚情のほどをお願い申し上げます。

付加価値を高める洋型墓石の立体彫刻も好評だった